

た東北地方で健全な自生地が新たに見出されたことは、その点でも意義あるものと思う。なお、採集標本は東京都立大学付属牧野標本館(MAK)に寄贈する予定である。

文 献

- 牧野富太郎, 1890. *Potamogeton hybridus* Michx. 八果シテ草木図説ノみづひきもナリヤ. 植物学雑誌(42): 302~303
- , 1891. 日本植物誌図篇 第1巻第9集. 敬業社.
- 松村任三, 1905. 帝国植物名鑑 下巻. 丸善.
- 三木茂, 1937. 山城水草誌. 京都府史蹟名勝天然記念物調査報告 18: 1~127.
- Kadono, Y., 1982. Distribution and habitat of Japanese *Potamogeton*. Bot. Mag., Tokyo 95: 63~76.
- 薄葉満, 1987. 福島県の興味ある水生植物Ⅲ. フロラ福島 5: 5~11.
- 福島県植物誌編さん委員会, 1987. 福島県植物誌. 福島県植物誌編さん委員会.
- 上野雄規, 1991. 北本州産高等植物チェックリスト. 東北植物研究会.
- 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑. 文一総合出版.

香川県にポタンウキクサ

久 米 修
(香川植物の会)

ポタンウキクサは、熱帯アメリカ原産のサトイモ科の水草で、昭和初期に園芸用に輸入されたものから逸出したのが日本での帰化植物としての始まりと言う(浅井, 1984).

香川県ではこれまで、栽培以外に野生化した記録はなかったが、1994年9月6日多度津町道福寺大関「上池」において、香川植物の会会員の貞広昭美氏が採集したものが筆者に届けられた。筆者は9月10日に現地を訪ねる機会があり、溜め池への流入口に繁茂する一群のポタンウキクサを確認することが出来た(写真参照)。1994年は記録的な渇水で、この溜め池の水位も著しく低下したためか、広島県の明鏡調節池で報告された(下田, 1992)様な大繁茂はその後見られなかった。また大滝・石戸(1980)によれば、本種の越冬は困難とされていることから、1995年2月12日現地確認を行なったところ皆無の状態となっていた。

これに引き続き香川県内では、

1994年9月24日高瀬町比地中井ノ口「国市池」(5株)

1994年11月5日牟礼町大町羽間「羽間中池」(約50株)においても、ポタンウキクサの生育を確認した。

ちなみに、多度津町「上池」と高瀬町「国市池」については、1982年以来毎年継続的に水草調査を実施しているが、これまでポタンウキクサは確認していなかった。



その後、1994年11月に高松市内の園芸店において、ポタンウキクサとサンショウモ(オオサンショウモではない)が販売されているのを見かけた。ポタンウキクサは、香川県内には園芸用に相当出回っている様であり、今後逸出する機会が増加するものと思われる。

参考文献

- 浅井康宏, 1984. 日本でふえている水生の帰化植物. 採集と飼育 46(7): 289-293.
- 大滝末男・石戸忠, 1980. 日本水生植物図鑑. 北隆館.
- 下田路子, 1992. 西条盆地(広島県)のポタンウキクサ. 水草研究会報 46: 5.